

# 肥後熊本藩 54 万石の港町 鶴崎

～江戸時代の鶴崎地区～

鶴崎は大野川の河口に位置し、府内から佐賀関を結ぶ道（江戸時代に佐賀関街道と呼ばれる）が通るなど、古くから海上・陸上交通の要衝でした。大友氏の改易後、いったん豊臣秀吉の直轄領となり、関ヶ原の合戦後には、徳川家康から肥後熊本城主加藤清正へ戦功として佐賀関・野津原の所領などと共に与えられました。清正は、鶴崎に瀬戸内海航路の拠点となる港を築き、また藩主の参勤交代の宿泊所となる「御茶屋」を建設しました。



※一部の名称については、「鶴崎御茶屋絵図」（大分県史近世篇Ⅲ）を参照

維新前鶴崎町全景図（得丸善之氏蔵）

## 町の中心 御茶屋

幕末頃の鶴崎の様子を描いた絵図には、堀で囲まれた御茶屋とその近くを通る佐賀関街道を中心に町屋が立ち並んでいます。鶴崎の御茶屋は、藩主の休憩・宿泊所だけでなく、御郡会所、御銀倉、御武器倉といった施設も設けられ、熊本藩が有する豊後領内の政治・経済・軍事の中心としての役割を担っていました。



## 「御茶屋」の跡を発見

2013年に鶴崎小学校の校舎改築に伴って、同校グラウンドの発掘調査が行われました。調査地点は、幕末頃の様子を描いた絵図によると、御茶屋の北側一帯で、御郡会所・御横目詰所などの施設があった場所に該当します。

この調査によって、御茶屋の周囲を巡る堀跡や17世紀後半頃の建物跡、丁寧に石を積み重ねた井戸跡などが確認されました。また、17世紀初頭の陶磁器や土器も発見されており、肥後藩領鶴崎の礎を築いた加藤清正との深い関わりを窺い知ることができます。



石を積み重ねた井戸跡

## にぎわう港



熊本藩主細川氏御座船入港図 / 大分市歴史資料館蔵

1632年、加藤氏に替わって熊本城主となった細川氏も、引き続き鶴崎を参勤交代の重要な港町として位置づけ、御座船「波奈之丸」以下、数多くの藩船を繋留していました。